

安全データシート(SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	お風呂きれい
供給者の会社名称	クリーンアンドケミカル株式会社
住所	大阪市住吉区清水丘3-16-14
担当部門	営業部
電話番号	06-6654-8577
FAX番号	06-6654-8577
メールアドレス	info@clean-chem.co.jp
緊急連絡電話番号	080-6175-9603
推奨用途	洗剤および洗剤(溶剤型製品を含む)
使用上の制限	推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家/化学物質専門家等の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約
化学品のGHS分類

物理化学的危険性	分類できない
健康有害性	皮膚腐食性/刺激性 区分1 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分1 特定標的臓器毒性(単体ばく露)区分2 呼吸器 特定標的臓器毒性(単体ばく露)区分2 心臓 特定標的臓器毒性(反復ばく露)区分2(骨 歯)
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性) 分類できない 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 呼吸器の障害のおそれ 心臓の障害のおそれ 長期にわたる、又は反復ばく露による歯、骨、呼吸器の障害のおそれ
注意書き	
安全対策	他の容器に移し替えないこと。 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 環境への放出を避けること。 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 呼吸用保護具を着用すること。
応急措置	物的被害を防止するためにも流出したものをウエス等で吸収すること。 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

直ちに医師に連絡すること。

気分が悪い時は、医師の診察、手当てを受けること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

耐腐食性内張りのある耐腐食性容器で保管すること。

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

施錠して保管すること。

内容物、容器を国、都道府県又は市町村の規制に従って廃棄すること。

専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

保管

廃棄

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	官報公示整理番号		CAS登録番号
		化審法	安衛法	
一水素ニフツ化アンモニウム	3.9%		既存	1341-49-7
有機酸	非開示		既存	非開示
リン酸	6%		既存	7664-38-2
水溶性溶剤	—			非公開

GHS分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)

一水素ニフツ化アンモニウム

リン酸

4. 応急措置

吸入した場合

直ちに医師に連絡すること。

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診察、手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

眼に入った場合

直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

口をすすぐこと。

飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。

無理に吐かせないこと。

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水。

使ってはならない消火剤

情報なし

火災時の特有の危険有害性

燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

特有の消火方法

火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置		消火作業は、風上から行う。 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 関係者以外は安全な場所に退去させる。 呼吸用保護具を着用すること。 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。
6. 漏出時の措置		
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置		呼吸用保護具を着用すること。 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項		物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材		多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。 少量の場合、吸着剤(土・砂など)で吸着させ取り除いた後、残りを大量の水で洗い流す。
二次災害の防止策		必要があれば消石灰、ソーダ灰などで中和する。 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。 滑って転倒する事故を引き起こす可能性があるため、製品の拡散を避ける。 漏出物の上をむやみに歩かない。
7. 取扱い及び保管上の注意		
取扱い	技術的対策	蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
	安全取扱注意事項	他の容器に移し替えないこと。 環境への放出を避けること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 呼吸用保護具を着用すること。 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
	接触回避 衛生対策	『10. 安定性及び反応性』を参照。 取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	安全な保管条件	耐腐食性内張りのある耐腐食性容器で保管すること。 施錠して保管すること。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
	安全な容器包装材料	耐腐食性内張りのある耐腐食性容器で保管すること。 本品は、空気中の水分を吸収すると金属に対する腐食性が強くなるため、取扱い時の材質に注意する。 SUS-316以上の材質か、ポリエチレン、FRPなどの樹脂系の材質を使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
		日本産衛学会	ACGIH
一水素ニフ化アンモニウム	未設定	未設定	2.5mg/m3(1996 TWA)
リン酸	未設定	1mg/m3 1990	1mg/m3

*)ACGIHの設定値は下記URLからご確認ください。 参照先:<https://www.acgih.org/>

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値/天井値
一水素ニフ化アンモニウム	未設定	未設定
リン酸	未設定	未設定

設備対策

蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な呼吸用保護具を選択し、着用すること。

手の保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護手袋を選択し、着用すること。

状況に応じて、不浸透性、不透過性の保護手袋等適切な保護具を着用すること。

眼、顔面の保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な眼および顔面の保護具を選択し、着用すること。

皮膚及び身体の保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護衣、履物を選択し、着用すること。

状況に応じて、不浸透性、不透過性の保護衣、履物等適切な保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

形状

液体

液体(粘性)

色

微青色

臭い

酸性臭

融点/凝固点

データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲

データなし

可燃性

不燃性

爆発下限界及び爆発上限 下限

データなし

界/可燃限界 上限

データなし

引火点

データなし

自然発火点

不燃性

分解温度

データなし

pH

0

動粘性率

データなし

溶解度

水溶性

n-オクタノール/水分配係数(log 値)

データなし

蒸気圧

データなし

密度及び/又は相対密度

データなし

相対ガス密度

データなし

粒子特性

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	情報なし
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	情報なし
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性	経口	区分3:酸性フッ化アンモン(毒性値=130mg/kg 出典:NITE) 区分2リン酸(毒性値=2000mg/kg 出典:NITE) 計算結果2770.08mg/kgのため区分5に該当。補正処理区分外
	経皮	分類できない:酸性フッ化アンモン(出典:NITE) 区分4リン酸(毒性値=1071mg/kg 出典:NITE) 計算結果が15498mg/kgのため、区分に該当しない。
	吸入:気体	(急性毒性(吸入:気体)) GHS定義による気体ではない。
	吸入:蒸気	(急性毒性(吸入:蒸気)) 区分に該当しない
	吸入:粉じん、ミスト	区分2リン酸(毒性値=0.9615mg/L=10% 出典:NITE) 計算結果が7.990065mg/Lのために区分に該当しない
皮膚腐食性／刺激性		区分2:リンゴ酸含有率10%(出典:NITE) 区分1リン酸含有率10%(出典:NITE) 区分1酸性フッ化アンモン含有率3.9%(出典:NITE) 加成分適用成分ならびに加成分適用できない成分を両者を勘案して、皮膚腐食性/刺激性を区分1と判定
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		区分2クエン酸含有率10%(出典:NITE) 区分2Aスルファミン酸3%(出典:NITE) 区分1酸性フッ化アンモニウム3.9%(出典:NITE) 区分1リン酸10%(出典:NITE) 区分1:NITEの総合判断基準
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		区分1(呼吸器出典NITE) 区分3(気道刺激性出典NITE 出典CLP-CLH) 区分1(心臓出典NITE)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		区分2(歯及び骨:酸性フッ化アンモニウム出典NITE)
誤えん有害性		データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性		
水生環境有害性 短期(急性)		区分なし(出典NITEならびにCLP-CLH)
水生環境有害性 長期(慢性)		区分なし(出典NITEならびにCLP-CLH)
残留性・分解性		情報なし
生体蓄積性		情報なし
土壌中の移動性		情報なし
オゾン層への有害性		データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物		おがくず等に混ぜて焼却炉で少量ずつ焼却処理するか、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。 内容物、容器を国、都道府県又は市町村の規制に従って廃棄すること。 専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
-------	--	--

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

Regulatory
Information by Sea

Complied with IMO.

UN No.
Proper Shipping
Name
Class
Packing Group
Marine Pollutant
Transport in bulk
according to
MARPOL
73/78,Annex II ,and
the IBC code

Regulatory
Information by Air

Complied with ICAO/IATA.

UN No.
Proper Shipping
Name
Class
Packing Group

国内規制

陸上規制
海上規制情報
国連番号
品名
国連分類
容器等級
海洋汚染物質
MARPOL73/78附属
書Ⅱ及びIBCコードに
よるばら積み輸送さ
れる液体物質

非該当
船舶安全法の規定に従う。
3265

航空規制情報
国連番号
品名
国連分類
等級

航空法の規定に従う。
3265

特別の安全対策

輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号

171

15. 適用法令

化学品にSDSの提供が求められる3法令の該非
労働安全衛生法(通知対象物質)
毒物及び劇物取締法(毒物・劇物)
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管
理の改善の促進に関する法律
適用される主たる国内法令

該当
非該当
非該当

労働安全衛生法	一水素ニフッ化アンモ ニウム	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)(弗素及びその水溶性無機化合物) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)(弗素及びその水溶性無機化合物) 危険性又は有害性等を調査すべき物(法第57条の3)(弗素及びその水溶性無機化合物)
	リン酸	名称等を通知すべき有害物(法第57条2、施行令第18条の2別表第9)(政令番号第618号)
水質汚濁防止法	一水素ニフッ化アンモ ニウム	有害物質(法第2条、施行令第2条、排水基準を定める省令第1条)(ふっ素及びその化合物)(アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物)
	リン酸	排水規制物質、水素イオン濃度
大気汚染防止法	一水素ニフッ化アンモ ニウム	有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中央環境審議会第9次答申)(フッ化物(水溶性無機化合物に限る))
船舶安全法	リン酸	腐食性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法	リン酸	腐食性物質(施行規則第194条)
労働基準法	一水素ニフッ化アンモ ニウム	痼病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1)(弗素及びその無機化合物(弗化水素酸を除く))

16. その他の情報

連絡先	クリーンアンドケミカル株式会社
参考文献	NITE GHS分類公表データ EU CLP Regulation, AnnexVI
免責事項	記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。

又、注意事項は、通常取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。